

令和5年度 氷見市教育総合センターだより 第3報

WEBQUを活用した魅力的な学級づくり研修会

6月7日（水）

講師：早稲田大学 教授 河村 茂雄 先生

QU、WEBQUの開発者である、河村茂雄先生を講師に、オンライン研修会を開催しました。これからの学級集団づくりについて、多様性の尊重、学習する集団の形成を目標とすべきこと、「安定度」と「活性度」の確立を重視していくことの大切さを学びました。

安定度：学級集団として、規律（ルール）と開かれた親和的な人間関係（リレーション）が統合されて確立し、協働活動ができる度合い

活性度：個人の存在や考えが大事にされた、メンバー同士の建設的な相互作用の度合い

WEBQUは、子供たちが質問の答えを入力し終わると、瞬時に分析結果が出力され、学級一人一人の子供の状態や学級集団の状態を把握することができます。また、対応を通して、より「安定度」「活性度」を向上させるための指針が提供されています。河村先生からは、「WEBQUは、学級集団づくりに、学年や学校等、チームで対応できるシステムである」ということを教えていただきました。

年2回ある調査をどのように学級づくりに生かしていけばよいか、先生方には、今後も研修を深めていただきたいと思います。



<オンライン研修会>

<参加者の声>

- 求められている学級集団の状態、「安定度」と「活性度」の目標が理解できた。多忙な中で、効率的に対応策を練ることができるよう、WEBQUを活用したい。
- 学級づくりと授業づくりは両輪であり、安定した集団をつくるためにも教職員が一丸となって取り組まなくてはならないと、改めて思った。

第1回 若手教員研修会「学級づくり・授業づくり」 6月6日（火）

講師：氷見市立上庄小学校 校長 坂田 和彦 先生



<コーヒーの香りに包まれて>



<グループで活動>

『学級づくり』『授業づくり』を体感する」をテーマに、実践経験が豊富で、ユニークな授業を展開される上庄小学校の坂田校長先生が講師となって教えてくださいました。教材はコーヒー豆。実際に豆を挽き、香り豊かなコーヒーを入れる体験をしました。参加者は、グループで役割を分担し、協力しながら生き生きと取り組んでいました。

「ねらいを達成できたか」「授業の構成の在り方」「コーヒーを教材として扱ったことの意味」を授業の振り返りの視点として示され、体験を通して楽しく「学級づくり・授業づくり」を学ぶ場となりました。

「教師は、お金を気にせずに子供の成長を願い、子供の成長を喜べる仕事」「自由度が高く、これだけ自由に工夫できる仕事はそんなにない」など、ご自分の経験を基に、教職の魅力について熱く語られました。コーヒーの豊かな香りに包まれながら、楽しく学び合う研修会となりました。

<参加者の声>

- 身近な物でも教材になることから、自分の生活を振り返ることが大切だと思った。実際に体験してみて、授業づくりの面白さを再発見することができた。とてもわくわくした。
- コーヒーという興味ある教材を通して、授業づくりについて考えることができた。自由度が高い仕事であるからこそ、何をどこまでやるのかを自分で判断することが必要だと感じた。何よりも授業者自身が授業を楽しむことが、よりよい授業につながると実感した。

ICTを活用した授業づくり研修会

6月9日(金)

指導助言：富山大学大学院教職実践開発研究科 教授 長谷川 春生 先生

【十三中学校】2年国語科「魅力的な提案をしよう～資料を示してプレゼンテーションをする～」
授業者：引谷 樹 教諭

○ねらい

- ・資料や機器を活用しながら、自分の考えを分かりやすく伝える方法を考えることができる。

○学習の様子

- ・「学校をよりよくするためにできること」というテーマで、班に分かれてプレゼンテーションをするための資料を作成していた。
- ・各班のプレゼンテーション資料を基に、観点を示しながら工夫されていること等について発表し合う中で、自分の班の資料に取り入れたいものや、改善点を考えていた。



<タブレットを活用しての話し合い>

○協議会(グループごとに意見をまとめ、協議に生かすために、TeamsのWhiteboardを活用)

- ・生徒の端末操作がスムーズで、日頃から活用している様子がうかがえた。
- ・xSyncと併用すれば、各自のタブレットPCから電子黒板に提示できるので、もっと効率よく発表できたのではないかと。

○指導助言

- ・ICTの活用について、アンケートをとって研修を行ったり、10分～20分のミニ研修会を何度も行ったりするなど、それぞれの学校の実情に応じて研修を進めている。
- ・端末をしっかりと活用しながら、国語科としてのノート指導も行われ、端末とノートの活用のバランスがよい授業であった。
- ・自分たちで作っているスライドのBefore・Afterがしっかりと見えるだけでなく、同時に比較することができる授業であった。
- ・タブレットPCを活用して、他の人の文章を見ることができるのは、よいことである。参考にすることで、書けない子供が書けるようになる。

第1回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会

6月21日(水)

「氷見市いじめ問題対策連絡協議会」は、学校、教育委員会、関係機関及び団体が連携し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決を図るために、氷見市いじめ問題対策連絡協議会設置要綱に基づいて、年2回開催しています。本会の委員長である光安淳子校長(中学校長会長)に司会をお願いし、市内のいじめ問題の状況等について協議しました。委員の皆さんからは、次のような意見が出されました。

- ・学校では、児童生徒・保護者へのアンケート調査、個人面談、SC等との面談等を行い、多面的な児童生徒理解を心がけている。教職員は「いじめは、毎日起こっている」を念頭に置き、児童生徒と関わっている。児童生徒が温かい言葉に触れ、温かい言葉を使えるように指導している。
- ・若い教員が多くなり、一人で悩み等を抱え込んで事態が悪化することがある。若い教員の様子を中堅、ベテラン教員が見届け、時にフォローに回るなど、チームで対応するようにしている。
- ・SSWとして、氷見市内の小中義務教育学校に週1回程度訪問し、カウンセリング指導員や生徒指導主事等と連携を図っている。気になる児童生徒やその保護者と面談等を行い、必要に応じて関係機関の紹介も行っている。また、校内を巡回し、気になる児童生徒の早期発見や、いじめが起きていないかの見守り等に努めている。
- ・いじめられた被害者よりも、いじめた加害者の方が自己肯定感が低いという調査結果が出ている。そういう子供たちがSOSを発信しやすい環境づくりと、自己肯定感を高める声かけ等が大切になってくる。
- ・いじめ問題の中で、生命に関わることや明らかな犯罪行為には、すぐに警察が介入する。法に触れない事案については、学校に連絡して対応を検討する。学校で対応に困ったときには、いつでも警察に相談してもらえたらと思う。
- ・学校だけで解決を図らないで、各校区にいる主任児童委員や民生委員児童委員、保護司の方々の力も借りてほしい。これからは、第三者の力も必要になってくる。
- ・今後も関係機関が連携協力し、地道に対策を進めていくことが大切だ。

教育論文・実践記録の書き方ポイント研修会

講師 教育総合センター 教育指導主事

6月15日(木)

谷内口まゆみ 先生

谷内口先生からは、「書くことは人を確かにする」という論文・実践記録を書くことの意義を教えてくださいました。そして、執筆の大まかな流れから、主題設定や全体構想、視点の持ち方のポイントまでを、丁寧に分かりやすくお話しいただきました。問題意識をもって、日頃の実践を振り返り、自分のテーマを明確にして子供たちの姿を追い続けること、実践を積み重ねて記録を残していくことの大切さについて学ぶ研修会となりました。(次回 8/23 予定)



<どのような姿を目指す?>

<参加者の声>

○書く構成や流れについて理解できた。生徒の実態や自身の授業実践を記録しながら、研究に励んでいきたい。また、研究を通して、見方・考え方を深め、授業づくりのやりがいを増やしていきたい。

○今回の実践記録には、自分の「省察」「学びを確かにする場」となるよう、骨組みをしっかり決めて取り組みたい。

生徒指導連絡会 「氷見市教育支援センターの取組」

6月27日(火)

生徒指導上の諸課題に関する情報交換等を通して、生徒指導・教育支援のより一層の充実を図るため、「生徒指導連絡会」を開催しました。今回は、参加した市内各校の生徒指導主事に向け、「氷見市教育支援センターの取組」について説明をしました。教育支援センター「あさひ」では、子供たちが社会的に自立できるよう、一人一人の思いや個性を大切に、それぞれの興味・関心に応じた活動を行っています。また、学校、保護者と連携しながら、子供たちの学びの場、居場所を提供しています。これからも子供たちや保護者のニーズを把握し、通室する際のハードルを少しでも下げるよう努めていきます。



校種や校区に分かれての話し合いでは、以下のような情報交換を行いました。

【メディアルールについて】

- ・コロナ禍もあり、ソーシャルメディアの利用が急速に広がっている。低年齢化も進んでいる。
- ・児童が決めたメディアルールがある。自分たちで決めたルールを守らせていきたい。そのためには、保護者の協力が必要である。
- ・メディアルールを決めても、すぐ現状に合わなくなる。生徒たちの意識を高めるためにも、生徒会を中心に、定期的に見直しをしていきたい。
- ・ネット対策フォローアップ事業、ネットトラブル防止講演会等を活用していきたい。

今後も情報の共有、連携を大切に、市全体の生徒指導の推進を図りたいと思います。

～～ 7月で勤務を終えた3名のALTからのお別れのメッセージ ～～

Dear Students and Teachers in Himi City

Claudia Gonzalez Cindy

This experience has truly been life changing. It has been a pleasure teaching students at Nishinomori, Junicho, and Hokubu. As well as working with great teachers and staff, your hard work is truly admirable. Thank you for your kindness and patience working with me and my limited Japanese language skills. My favorite memories are how gradually students' English are improving. While they may not notice it, I definitely can. Especially, when students work up the courage and use it outside the classroom. For instance, when I run into them at a festival or at the store, and they have the courage to speak to me. Their parents are very proud of them, and it makes me really happy. I hope students continue to develop their English skills to express how wonderful Himi city can be. Most importantly, I want to express that I will cherish the wonderful people of Himi. Especially those I became friends with in Japanese class, Kyudo, Koto, English Conversational Class, small business owners in Himi, and Himi Education Center. Thank you, I will not forget you. I hope to come back in the near future.



My Wonderful Life in Himi

Kenley Brust Jordan

My two years in Himi have been a life changing experience for me. I met many amazing new friends, became involved in the community, and tried many new things. I started learning kyudo under the guidance of wise and experienced teachers. I had the opportunity to volunteer at English lessons and got to meet many residents. I saw many beautiful areas around Himi, such as the Big Camellia of Oiya, Amaharashi Coast, and Asahiya Park. I greatly enjoyed teaching the students of Himi, and I hope that they will grow into role models for future generations. I want them to appreciate the beauty of Himi and to show it to foreign visitors, because this city is truly a wonderful place. I will treasure my memories of Himi for the rest of my life. Thank you, Himi, and I will try to visit as often as I can.



To Hokubu Junior High School, I greatly enjoyed teaching at the school. I was greatly impressed by the discipline of the students, and the school atmosphere was very welcoming. Thank you to the teachers for introducing me to various activities around Himi, and for creating a wonderful atmosphere. Thank you to the students, for always being friendly to me every day, I will never forget your faces.

To Junicho Elementary School, thank you for being so fun and engaging. The elementary school students were some of the nicest children I've ever met, and I truly felt like I belonged to the community. To the teachers, thank you for creating fun and engaging activities for the students, and for promoting international exchange.

Finally, to Nishinomori Academy, I will truly miss my time at the school. I was able to meet so many different teachers and students. I feel that I was able to make strong bonds with the students and teachers, and I hope I will be able to see the students grow into responsible adults. I will cherish the memories I made at Nishinomori forever.

Bittersweet goodbyes

Alexia Diamond Nicole

To my three schools: Kaiho, Nadaura and Konan the time feels like it quickly passed. I am very sad to head home to America but I am happy to know I've met amazing people while working in Himi. I didn't switch schools during the time I lived here, so I consider myself lucky that I was able to see the students I started off with grow, mature and move on. Kaiho, Nadaura and Konan will always have a special place in my heart, and I will always cherish the memories I made with the teachers and students. Although, I was an English teacher, contracted to teach English for pay, everyone was so kind to teach me Japanese and Japan culture in return for free and I am eternally grateful for everyone's patience and understanding. This is the part of cultural exchange that I really love.



Coming to Japan a second time is an experience I will never forget. Himi city has offered me Japanese lessons, Kyudo lessons and Taiko lessons. I am so happy and proud that I was able to take part in Japan's culture to such a degree. Thank you to the Himi Educational Center staff and from the bottom of my heart, thank you to Yakida Sensei! I will miss Himi, the students, the teachers and the staff who made my Himi shi, Toyama Ken, Japan experience the best it could have possibly been. Now it is time for me to take what you all have taught me, and move on.



新着図書を紹介

夏季休業中は、まとまった時間がとりやすくなります。
当センターの教育図書をぜひ活用してください。
※ 返却は、市教委の棚入れでも結構です。

図 書 名	著 者 ・ 発 行
○見聞のまねび、耳見の学び いま・未来を創る教育者へおくる伝薪録	多田孝志、増淵幸男、岡秀夫 著 三恵社
○白熱する教室 第32号、第33号	菊池省三 編著 中村堂
○子どもの非認知能力を育成する教師のためのソーシャル・スキル	河村茂雄 著 誠信書房
○開かれた協働と学びが加速する教室	河村茂雄 著 図書文化社
○授業づくりの深め方 「よい授業」をデザインするための5つのツボ	石井英真 著 ミネルヴァ書房
○中学校・高等学校 授業が変わる学習評価進化論	石井英真 著 図書文化社